

# 荒井教授の退職記念号に寄せて

学 長 幸 田 亮 一

荒井先生は、1967年に大阪府立大学経済学部をご卒業後、大阪大学大学院経済学研究科修士課程に進学され、同課程修了後の1969年に熊本大学法文学部に助手として着任されました。その後、講師、助教授と順調にキャリアを積み重ねられ、1984年には改組後の熊本大学法学部教授に昇格されています。1996年には熊本学園大学教授として本学にお越しになり、学部ならびに大学院において学生・院生の教育に熱心に取り組まれました。さらに、ご経歴のところに記されているように、経済学科長、教学部長、学生部長などをお務めになり、経済学部ならびに熊本学園大学の発展に一方ならぬご貢献をされました。さらに、先生は地域にも深く関与され、熊本県雇用対策審議会委員、熊本県職業能力開発審議会委員、熊本地方最低賃金審議会委員など様々の委員ならびに委員長を歴任され、熊本の地域発展に尽力されてきました。

先生のご専門は労働経済学であり、長年にわたる研究成果が大著『現代の労働経済学』（梓出版社）として2013年に上梓されています。本書は、人口分析、人的資本、賃金、失業、労働市場、労働組合、所得分配、労働法制など、おおよそ労働経済学の主要課題を網羅的に取り上げ、荒井労働経済学の集大成となっています。

荒井先生と私は、本学への着任年が同じということで親しくさせて頂いております。また、先生が2004年から教学部長をお務めになった時には、私は商学部長として、学部長会でお世話になるとともに、各地への進学説明会、保護者懇談会でもご一緒させて頂き、行き帰りの車中でいろいろなお話をさせて頂き、先生の該博な知識と明晰な話ぶりにはいつも敬服させられていました。その後、ご病気になられ心配しましたが、持ち前の忍耐強さを発揮されりハビリを通じて見事復帰され、校務だけでなく学外委員のお仕事も立派に果たされてきたのには頭が下がります。

地域立大学を標榜する本学にとってかけがえのない先生がご退職されたのはたいへんな痛手ではありますが、その後、特任教授として教育研究だけでなく、熊本地方最低賃金審議会会長などを継続されているのは本学のみならず熊本経済にとってもたいへんありがたいことです。

荒井先生の今後のご健勝とご活躍を心より願ってご挨拶に代えさせて頂きます。